

目 次

はじめに	七田 基弘	i
第一部		
I. 問題の所在と研究の趣旨および方法	菅原 廣一	1
	今井 秀雄	
II. プロジェクトチームによる研究セミナーの概要	菅原 廣一	6
III. 本特別研究に関する現状認識と課題	各研究分担者	11
第二部 ビデオを中心とした事例研究		
I. 障害の重い子とのコミュニケーションに視点をあてた係わり		
1. 重度の運動障害がある子供との係わり合いの例		
—姿勢の変換や移動に際してのコミュニケーションに視点を置いて—		
	松田 直	37
2. 音声言語による表現を拓げることを目指した一事例	原澤恵美子	41
3. 物とのかかわりをとうし、人の存在を気づかせていく指導	今 二史	46
	大賀たえ子	
4. 討 論	中澤 恵江	52
II. 非音声系の言語によるコミュニケーションに視点をあてた係わり		
1. 漢字を用いた視覚言語療法	東條 吉邦	57
2. 行動体制変換に係わるヒラガナ文字信号系活動の形成および促進		
—障害の事例からの接近—	土谷 良巳	66
3. 発信系の媒体と発信行動の拡大	若林 節子	75
4. 討 論	藤島 省太	82
III. 音声系の言語によるコミュニケーションに視点をあてた係わり		
1. 交信行動場面における不全態解消を試みた吃音児		
S. J.との係わり合いの経過について	藤島 省太	88
2. 聴覚障害の診断が困難であったS. N. 児の指導経過		
—手指メディア導入と両親援助を中心に—	伊藤 泉	96
	鈴木 修子	
3. 音声言語が行動調整に関与するに至った過程		
—いわゆる「多動」, 「ことばがない」, 「人との係わりが少ない」		
といわれた事例において—	中澤 恵江	102
4. 討 論	土谷 良巳	109
あ と が き		115